

水と光のまちづくり推進会議 平成27年度事業報告（案）**1. 概 要**

大阪府・大阪市・経済界が連携し、世界の都市間競争に打ち勝つ都市魅力を創造・発信するため、新たに「光のまちづくり推進委員会」及び「大阪・光の饗宴実行委員会」を本推進会議のもとに位置付け、「水と光の首都大阪」の実現を目指す体制を強化した。

また、平成27年度は道頓堀開削400周年、大阪城まちづくり400年など様々な節目が重なる大阪にとってのシンボルイヤーであることから、シンボルイヤーを盛り上げる「水都大阪2015」の事業を実施した。

2. 内 容**(1) 水と光のまちづくり推進に関する基本方針の改訂**

平成27年度から「光のまちづくり推進委員会」及び「大阪・光の饗宴実行委員会」が、水と光のまちづくり推進会議のもとで活動するため、「水と光のまちづくり推進に関する基本方針」を（参考資料）の通り、改訂した。

(2) 水都大阪パートナーズ事業支援業務**①水都大阪パートナーズに対する基本方針の策定・提示**

一般社団法人水都大阪パートナーズに対し、「水と光のまちづくり推進に関する基本方針」を提示した。

②水都大阪パートナーズへの交付金助成

「水都大阪パートナーズ事業助成金交付要綱」に則り、大阪府・大阪市の27年度分担金計7300万円を、事業実施団体である一般社団法人水都大阪パートナーズに助成した。

③水都大阪パートナーズへの事業評価の実施

「水と光のまちづくり推進に関する基本方針」の実現にむけ、一般社団法人水都大阪パートナーズの事業目標、事業計画及び目標達成状況の評価を行うため、事業評価委員会（委員長：橋爪紳也・大阪府市都市魅力戦略推進会議会長）にて、事業評価を実施した。

(3) 「光のまちづくり推進委員会」及び「大阪・光の饗宴実行委員会」に対する基本方針の提示

光のまちづくり推進委員会及び大阪・光の饗宴実行委員会に対し、「水と光のまちづくり推進に関する基本方針」を提示した。

(4) 水都大阪 2015 企画・運營業務

2015 年シンボリックイヤーを水辺から盛上げるため、昨年度実施した 2014 年プレ事業を継承した 3 つのコアプログラムを中心に、様々な民間プログラムと連携しながら、夏から秋にかけて「水都大阪 2015」を開催した。また、同事業に併せて、水路大阪の魅力発信にも取り組んだ。(コアプログラム：延べ開催日数 24 日間、総来場者数約 75 万人)

(5) その他

①水と光のまちづくり推進会議の開催

- ・ 第 5 回 (7 月 7 日) (6 人)

「水都大阪パートナーズの取り組みについて」「水都大阪 2015 について」「大阪・光の饗宴 2015 開催概要について」「光のまちづくり推進委員会の取り組みについて」

- ・ 第 6 回 (2 月 9 日) (7 人)

「会長の選任について」「水都大阪 2015 開催報告について」「水都大阪パートナーズの活動について」「大阪・光の饗宴の活動について」「光のまちづくり推進委員会の活動について」

②水都大阪パートナーズ事業評価委員会の開催

- ・ 第 6 回 (5 月 20 日、8 人)

「委員長の選任について」「水都大阪パートナーズの平成 26 年度取組結果、平成 27 年度取組方針について」「平成 26 年度最終評価について」「平成 26 年度評価結果報告、ならびに平成 27 年度取組項目・達成目標について」

- ・ 第 7 回 (10 月 26 日、8 人)

「水都大阪パートナーズの平成 27 年度取り組み状況について」

以 上

平成27年7月7日 改訂

水と光のまちづくり推進に関する基本方針 ～「水と光の首都大阪」の実現をめざして～

大阪では、この10年、行政・企業・市民等が連携し、水都大阪の再生に取り組んできた。大阪都心部の河川に遊歩道・船着場が整備され、それらの魅力空間を活用した個性的なクルーズ、河川法の規制緩和を活用した日本初の常設川床「北浜テラス」など、日本で最も先進的な水辺の利活用を行う都市となった。また、公民が協力して進めた護岸・橋梁・高速道路橋脚のライトアップ、さらには冬の風物詩となった大阪・光の饗宴（OSAKA光のルネサンス、御堂筋イルミネーション等）の開催など、日本でも有数の光景観を持つ都市ともなった。

我々は、こうした取り組みをさらなる展開へとつなげ、水と光の魅力で世界の都市間競争に打ち勝つ「水と光の首都大阪」の実現をめざす。そのために2015年シンボルイヤーをキックオフの年として、2020年に向けて以下の目的を掲げ、オール大阪で取り組む。

◆世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」を実現

大阪城から中之島、大阪湾までをつなぐ「東西軸」と都心部の「水の回廊」を中心に、他都市に類を見ないリバークルーズや水辺の賑いづくりを進める。

また、大阪の中心を南北に走る御堂筋や中之島を光で彩るとともに、府域の民間主体のプログラムと連携することにより、圧倒的な光景観を創出していく。

こうした取り組みを通じて、世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」を実現する。

◆「水と光」の魅力で、誰もがいつでも楽しめるテーマパークに

「水と光」の魅力を大阪のまち全体への魅力に広げ、国内外から観光客が訪れる、誰もがいつでも楽しめる水と光のテーマパークを実現する。

◆水と光による新たなビジネスモデルや賑いの創出に向け、国内外のタレント（才能）が集い、活躍する舞台に

国内外から企業やクリエイティブな人材が集い、水と光による新たなビジネスモデルや賑いが継続的に創出され、民間投資を呼び込む仕組みをつくる。

◆新たな公民連携モデルの構築

民の先駆的な取り組みを主導する「水都大阪パートナーズ」と、行政のワンストップ化を行う「水と光のまちづくり支援本部（水都大阪オーソリティ）」は、都市経営の視点を持って連携を図りながら、共通の目標に向かって、都市魅力づくり・まちづくりを推進する。

また、大阪・光の饗宴において、民間主体の関連ビジネスの創出・活性化を図るなど、公民の連携による都市経営プロジェクトの構築に取り組む。

以 上